

十三湖周辺の主な遺跡

車力村

牛瀉（1）遺跡

岩木川左岸、牛瀉溜池北側の低丘陵地に位置する遺跡です。平成元年より、車力村教育委員会によって発掘調査が実施され、**縄文時代前期**から**中期・後期**にかけての集落跡が発見されています。



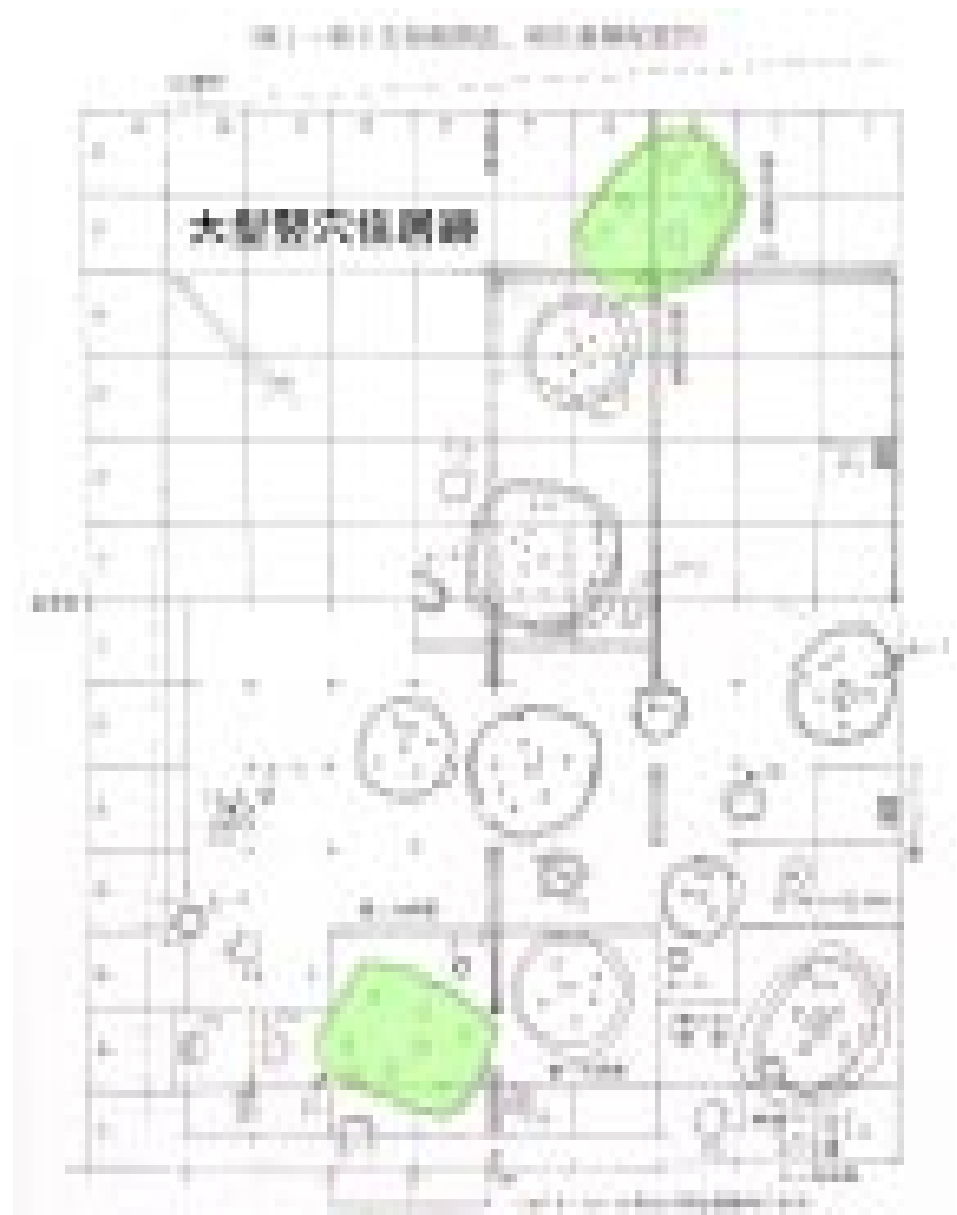
とくに2号竪穴住居をはじめとする縄文時代前期の**大型竪穴住居跡**は、十三湖周辺では初めて発見された珍しいものです。また、**石錘**等の漁具が多数発見されているとともに、狩猟具が少ないことから、漁撈活動に重点をおいた縄文集落と考えることができます。



2号竪穴住居跡



3・5号竪穴住居跡



遺構配置図

乗鞍遺跡

岩木川左岸、袴形溜池北側の低丘陵上に位置する遺跡です。現在は土取りのため遺跡はほぼ消滅状態となっていますが、過去に表採された資料が、車力村教育委員会に収蔵されています。



遺物は、縄文時代後期の十腰内式土器が主体で、壺や浅鉢、注口土器が認められます。また、十三湖周辺では珍しい弥生時代前期の二枚橋式土器の破片や、内面黒色処理された平安時代前期の土師器坏・須恵器坏・壺・甕なども含まれることから、縄文時代後期から平安時代にかけて営まれた複合遺跡と考えることができます。

車力村教育委員会 1990 牛潟(1)遺跡発掘調査概報

花林遺跡

岩木川左岸、車力集落南側の丘陵地に位置する遺跡です。昭和4年(1929)坏形・皿形2点の完形須恵器が出土しました。坏形土器の底面には「惟」もしくは「帷」と推定される刻書も認められます。形態や製作技法からは平安時代前期の資料と考えられます。



また、平成13年(2001)には車力村教育委員会によって発掘調査が実施され、縄文時代前期前葉表館式土器と推定される破片資料や、平安時代の集落跡などが発見されています。これらから、縄文時代前期・平安時代前期の複合遺跡と考えられます。



完掘状況



遺構配置図



縄文土器出土状況

車力村教育委員会 2002 花林遺跡
- 庭園造成に伴う発掘調査報告書 - ほか

太田光遺跡

岩木川左岸、牛潟集落南方の低丘陵地に位置する遺跡です。

土師器坏や甕、**擦文土器**・土錘等が表採されており、これらからは**平安時代後期**に営まれた遺跡と考えられます。また、表

採資料の中に含まれている、**土鈴**と呼ばれる祭祀具は、青森県においては浪岡町周辺を中心に出土していますが、十三湖周辺では初めての発見となる珍しい遺物です。



車力村教育委員会 1990 牛潟(1)遺跡発掘調査概報

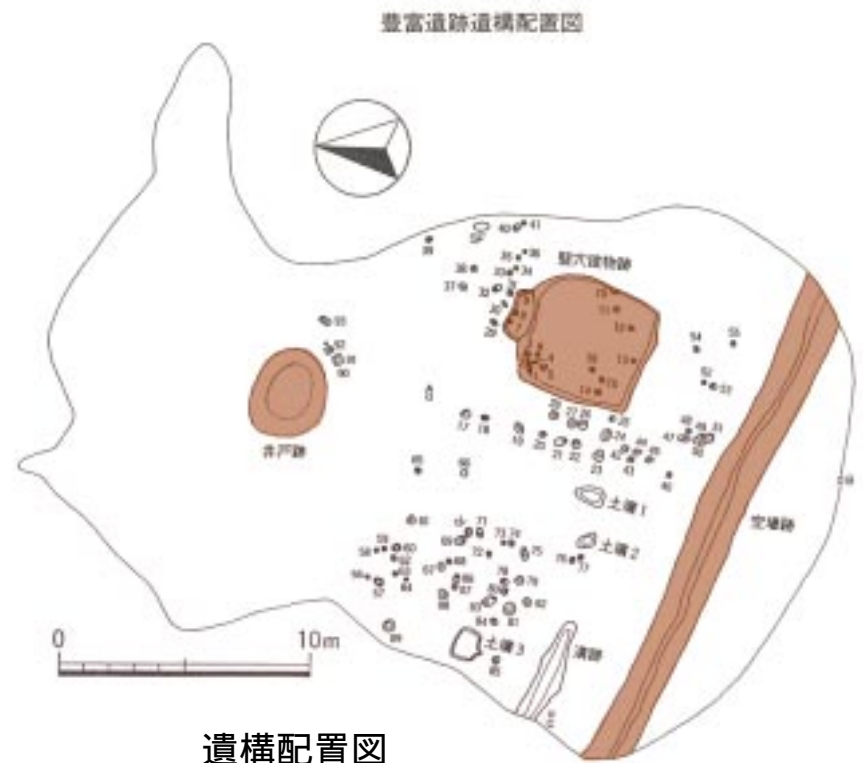
豊富遺跡

岩木川左岸、豊富集落の北端の丘陵地に位置する遺跡です。平成5年(1993)車力村教育委員会によって発掘調査が実施され、数条の**空壕跡**によって区画された、平安時代の**竪穴住居跡**や**井戸跡**が発見されました。出土遺物は、土師器坏・甕のほかに、須恵器や**擦文土器**、羽口・鉄滓等の**鉄生産関連遺物**が多く出土しています。

これらの遺物からは、**平安時代後期**の年代が考えられます。なお、空壕跡によって囲まれた古代集落は、岩木川下流域左岸地帯では初めての発見となります。



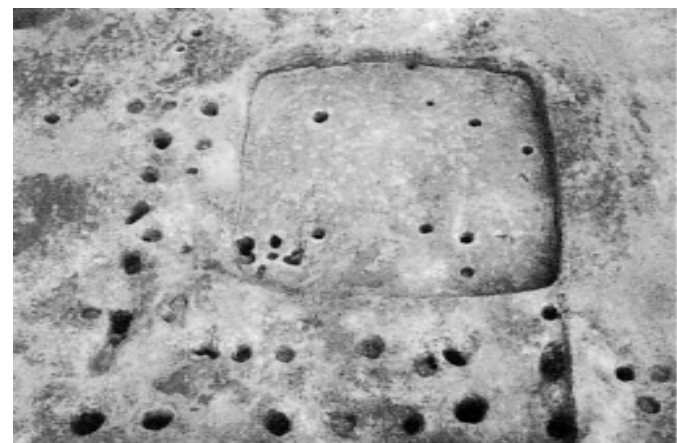
完掘状況



遺構配置図



空壕跡



竪穴建物跡

車力村教育委員会 1998 豊富遺跡発掘調査報告書

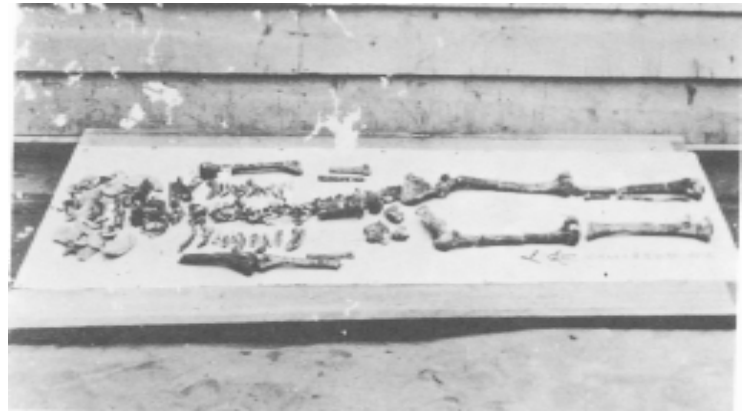
市浦村

オセドウ遺跡



相内川左岸、現在**神明宮**社地となっている丘陵部に位置する遺跡。大正12年(1923)の**人骨**出土を契機として、同14年東北大学医学部**長谷部言人**氏の命をうけた**山内清男**氏が発掘調査を行った結果、**円筒土器**の編年に関わる資料が得られました。

以来縄文時代前・中期の貝塚として知られるようになり、東京大学理学部**中谷治宇二郎**・**吉田格**・**市浦村教育委員会**等によって



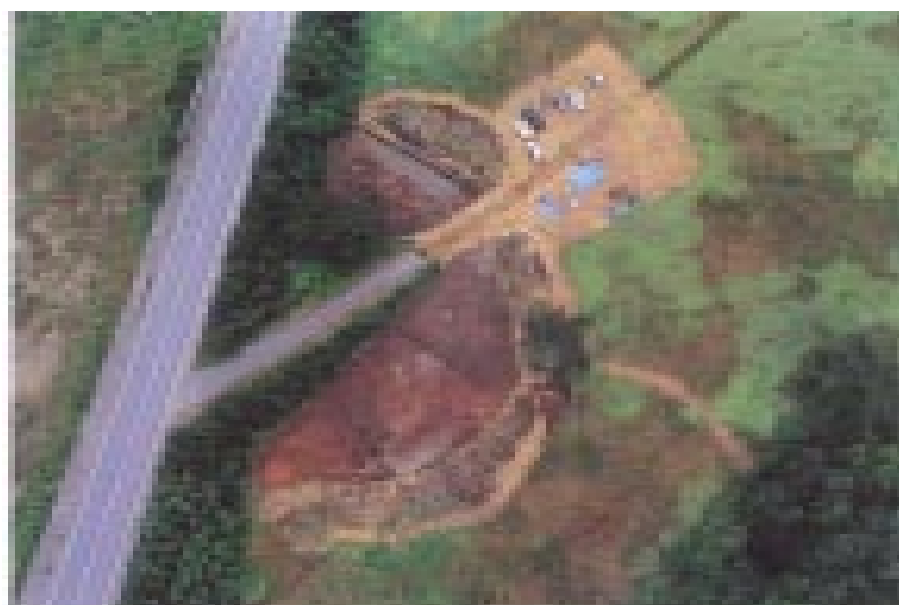
試掘調査が実施されました。円筒土器上・下層式土器、石器、獣、鳥骨、貝類ほか、**擦文土器**が出土していることから、縄文時代並びに平安時代後期の複合遺跡と考えられます。

市浦村 1984 市浦村史1

岩井・大沼遺跡

十三湖北岸、**大沼北岸**の丘陵部に位置する遺跡です。平成12年(2000)市浦村教育委員会によって発掘調査が行われ、縄文時代の**土器捨て場**が発見されています。

遺物は、大洞A'式を中心とした土器群をはじめ、石器や土製品がまとまって出土しています。これらから**縄文晩期**の遺跡と考えられます。



航空写真



調査風景

市浦村教育委員会 2001 岩井・大沼遺跡

五月女范遺跡

十三湖北岸の低地に位置する遺跡です。昭和56年(1981)市浦村教育委員会によって発掘調査され、縄文晩期の大洞B～A式の土器・石器・石製装身具・獣骨等が出土し、晩期の製塩土器も確認されています。近年は土砂採取によって、消滅しつつありますが、縄文時代晩期の遺物包含地と考えられます。

中島遺跡

十三湖内の中島に位置する遺跡です。昭和28年(1953)早稲田大学の桜井清彦氏が、東北地方北部の土師器の編年研究を目的に発掘調査しましたが、良好な包含層にはならず、以前砂取り工事で出土した奈良時代の土師器について資料紹介しています。

また、昭和58年・60年には市浦村教育委員会によって発掘調査が行われ、柱穴状ピット14個が発見されています。出土状況が不明なもの、土師器坏・高坏・壺・甕などが表採されており、これらから奈良時代の遺跡と考えられます。



琴湖岳(2)遺跡

十三湖西岸の低地に位置する遺跡で、現在は十三湊遺跡に含まれています。平成7年(1995)青森県教育委員会によって調査が行われ、ピット跡・溝跡・土坑跡などの遺構とともに、土師器坏や擦文土器が出土しています。

これらから平安時代後期の遺跡と考えられます。



青森県教育委員会 1997 琴湖岳(2)遺跡

古館遺跡

磯松川左岸、磯松集落北東の丘陵地に位置する遺跡。空壕跡で区切られた三つの平場が表面観察されることから、従来中世城館と考えられてきましたが、近年試掘調査が行われ、平安時代後期の遺構・遺物が確認され、古代の区画集落である可能性が高くなりました。

また現在磯松墓地に安置されている五輪塔が、近くの五輪沢より発見されたという伝承が残されています。

実取（2）遺跡

十三湖北岸、相内川河口部の沖積低地に位置する遺跡。平成13年(2001)浄化センター建設工事中に偶然井戸跡が発見されました。

市浦村教育委員会によって精査された結果、擦文土器を伴った平安時代後期の木組井戸跡であることが確認されました。

市浦村教育委員会 2002 実取（2）遺跡



井戸跡検出状況

唐川城跡

十三湖北岸、唐川左岸の高地(標高163m)に位置する遺跡です。空壕跡によって区画された平場や、井戸跡が表面観察されることから、従来中世豪族安藤氏に関連する城館と考えられてきました。



平成11～13年(1999～2001)富山大学によって試掘調査が実施された結果、平安時代後期の竪穴住居跡や鉄生産関連遺構が発見されるとともに、井戸跡・空壕跡も同時期のものと推定され、古代の区画集落跡である可能性が高くなりました。

出土遺物は、平安時代の土師器・須恵器ほか擦文土器が出土していることが特徴です。

中世陶磁器も出土していることから、平安時代・室町時代に利用された複合遺跡と考えられます。

富山大学人文学部考古学研究室 2002
津軽唐川城跡 - 古代環壕集落の調査 -



遺跡測量図

遺構配置図



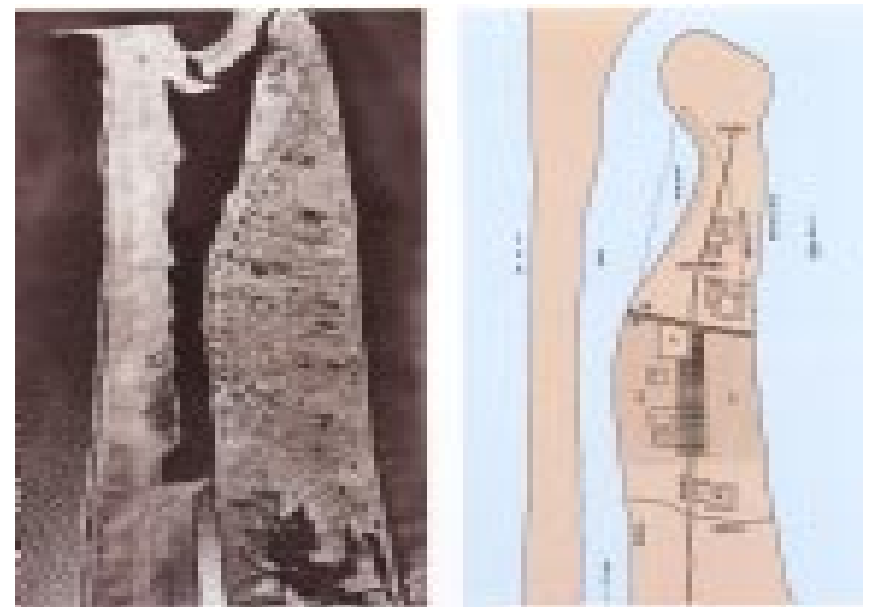
井戸跡検出状況

十三湊遺跡

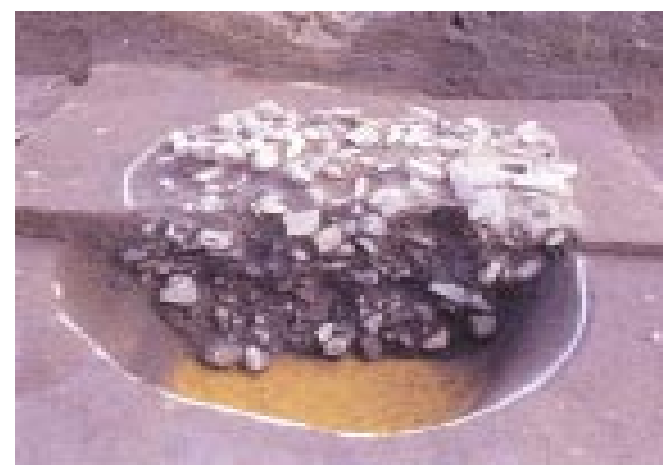
十三湖と日本海をつなぐ水戸口付近、現十三集落一帯に広がる中世・近世の集落遺跡です。

昭和48年（1973）以来市浦村教育委員会・青森県教育委員会・国立歴史民俗博物館ほかによって発掘調査が断続的に行われ、鎌倉時代から室町時代にわたる建物群や井戸跡をはじめ、土塁・空壕・船着場・道路等遺構などが発見され、中世港湾都市としての様相が次第に明らかになってきています。

また昨年度は、遺跡の南限に位置する壇林寺跡と推定されている地点において、溝によって区画された平場や、中世墳墓等が発見されています。出土遺物からは、14世紀後半から15世紀前半に最盛期を迎え、安藤氏が南部氏に敗退した時期を境に衰退していった可能性が考えられています。



井戸跡検出状況



集石遺構検出状況



遺構検出状況



集石遺構出土遺物

中里町

深郷田遺跡

岩木川右岸、宮野沢川南岸低丘陵部に位置する遺跡です。昭和14年(1939)白崎高保氏によって初めて発掘調査が実施されて以来、縄文時代前期深郷田式土器の標式遺跡として知られます。

以後も松平義人、成田末五郎・渡辺兼庸・佐藤達夫・佐藤仁等諸氏によって調査され、縄文時代前期～晩期、平安時代の遺物・遺構が出土しています。昭和40年前後、宮野沢川護岸工事のため、その半分程度を削平されましたが、現在も多量の縄文土器が採集されます。



調査風景(昭和37年)

大沢内遺跡

岩木川右岸、大沢内溜池一帯に位置する遺跡です。昭和49年(1974)青森県教育委員会により発掘調査が実施され、平安時代の竪穴住居跡、縄文土器(中期～晩期)・土師器・須恵器・土錘等が出土しています。

平成13年(2001)中里町教育委員会による試掘調査においても、同様の資料が得られていますので、縄文時代と平安時代前期に営まれた複合遺跡と推定されます。



調査風景
(平成13年)



竪穴住居跡(昭和48年)

中里城遺跡

岩木川右岸、宮野沢川と中里川に挟まれた丘陵部に位置する遺跡です。空壕跡によって区切られた複数の平場が観察されることから、従来中世城館と考えられてきましたが、昭和63～平成9年（1988～1997）中里町教育委員会ほかによって発掘調査が行われ、約80棟の竪穴住居群からなる古代集落跡が確認されました。



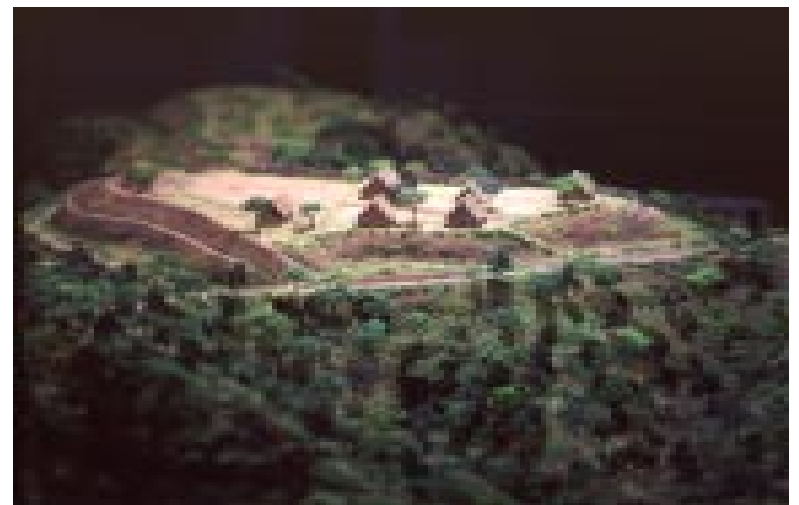
遺構配置図



空壕跡

遺物は、土師器・須恵器をはじめ羽口・鉄滓などの鉄生産遺物が出土しています。また擦文土器や非ロク口の土師器碗の出土が多いことも特徴的です。集落は平安時代前期頃成立するものと推定されますが、同後期には集落を囲む空壕・柵列等が出現し、区画集落へと変貌を遂げます。

同集落はまもなく廃絶しますが、室町時代に再利用されることが明らかになっています。



中里城遺跡模型



土器焼成坑跡の分布状況（10世紀前葉～中葉の竪穴住居群を切って構築されている）



土器焼成坑跡
検出状況



土器焼成坑
跡出土遺物

五林遺跡（五林館）

岩木川右岸、中里城遺跡の南西約500mの低丘陵に位置する遺跡です。「五林館」もしくは「亀山館」と通称され、中世城館と考えられていました。平成6年（1994）中里町教育委員会によって試掘調査が行われ、平安時代後期の柵列跡並びに空壕跡が発見され、古代の区画集落であることが明らかになりました。



調査風景

出土遺物は、土師器・須恵器ほか擦文土器なども出土しています。また遺跡周辺からは、珠洲や青磁が出土しているため、古代から鎌倉・室町時代にわたって営まれた遺跡と考えられます。



珠洲



空壕跡



柵列跡



五輪塔

胡桃谷遺跡（尾別館）

岩木川右岸、尾別川南岸の丘陵先端部に位置する遺跡です。現在は天台宗弘誓寺、津軽三十三観音十四番札所尾別観音堂が所在します。「尾別館」と通称され、数条の空壕跡が確認されることから、中世城館と考えられてきました。



かつて台地先端部を削平した際に、須恵器長頸壺・土師器皿・擦文土器、珠洲播鉢等が出土しました。また、西側の畑からは懸仏も出土しています。これらから、平安時代・中世に利用されていたことが推定されます。



珠洲



懸仏

板橋遺跡（赤坂館）

岩木川右岸、尾別川北岸の丘陵部に位置する遺跡です。「赤坂館」と通称され、尾根部に数条の空壕跡が認められることから、中世城館と考えられてきました。

平成七年（1995）中里町教育委員会によって試掘調査が行われ、平安時代後期の土師器坏・皿、甕、擦文土器、土錘等が出土しました。空壕跡も同時期の築造と推定されることから、古代の区画集落と考えられます。



概観図



空壕跡

唐崎遺跡（安倍太郎屋敷）

十三湖東岸、今泉川と支流切明沢に挟まれた丘陵部に位置する遺跡です。「安倍太郎屋敷」と通称され、環壕状の空壕跡が確認されることから、中世城館と考えられてきました。

平成五年（1993）中里町教育委員会によって試掘調査が行われた結果、空壕跡より平安時代後期の土師器坏・小皿・甕・把手付土器・小型土器、巻上整形碗、擦文土器、土錘などが出土し、古代の区画集落の可能性が高くなりました。



古代の区画集落の可能性が高くなりました。